

文書番号	KR 0105	管理版	
版・改訂	第 16 版	登録配布先番号	
発行日	2020年 4月 27日		

# 環境経営レポート

適応規格：エコアクション21  
(ガイドライン2017年版に準拠)

【活動期間：2019年4月1日～2020年3月31日】

## 株式会社 カミジョウパック

〒399-8204

長野県 安曇野市 豊科高家 1178番8号  
安曇野産業団地内

電 話) 0263-71-4649

F A X ) 0263-71-4666

承認	審査	作成
上條	丸山	丸山

(社長)

(責任者)

(事務局)

# 環 境 経 営 方 針

株式会社 カミジョウ パックは、商品のパッケージを開発・設計・製造していることを踏まえ、地球環境を守り資源を大切にすることが、人類共通の重要課題であることを認識し、私たちの子孫の時代に、地球の豊かな恵みがうけられるよう、自然との調和をめざして継続的に事業活動を行います。

1. 当社の事業活動・製品・サービスが地球環境に与える負荷を評価し、技術的、経済的可能な範囲で環境目標・活動計画を定めて、環境経営の継続的な向上に努め、積極的な環境保護活動を行います。
2. 環境に関連する法令や規制及びその他の要求事項を遵守し、利害関係者の見解に配慮します。また、これらを必要に応じて当社の自主基準を定め管理します。
3. 当社事業活動・製品・サービスで環境負荷が大きい以下の重要課題に関して継続的改善に努めます。
  - ① 省エネルギーに努め、二酸化炭素の排出量を削減します。
  - ② 工程から排出される廃棄物の3R(リデュース、リサイクル、リユース)を取組みます。
  - ③ 環境負荷の少ない製品の開発・設計に努めます。

山紫水明な安曇野の地にふさわしい、地球を守り自然を愛する企業として行動します。  
また、この環境経営方針書は全従業員に周知徹底すると共に社内外に公表します。

2004年 4月 1日 : 初版制定  
2014年 2月 1日 : 改定(2)  
2018年 4月 1日 : 改定(3)

株式会社 カミジョウパック

代表取締役 上條 宏聡

# 環境経営活動レポート

令和 2年 4月 25日  
株式会社 カミジョウパック

## 1. 事業活動の概要

### 1) 事業者名及び代表者名

株式会社 カミジョウパック  
代表取締役 上條 宏聡

### 2) 所在 〒399-8204

長野県 安曇野市 豊科高家 1178番8  
安曇野産業団地内

### 3) 環境保全関係の責任者及び担当連絡先

責任者 総務部長  
環境管理責任者 丸山 文武

#### 連絡先

電話 0263-71-4649  
FAX 0263-71-4666  
E-mail [kpack@kamiyopack.com](mailto:kpack@kamiyopack.com)

### 4) 事業の内容

工業商品用容器・包装材の設計、製造、販売

### 5) 認証・登録の範囲

全組織・全活動

### 6) 事業の規模

活動規模	2017年	2018年	2019年	単位
年間生産総量	1,739	1,823	1,928	ton
・プラスチック事業	1,190	1,205	1,253	ton
・ダンボール事業	230	210	134	ton
・プラ段・Pブロック事業	319	408	541	ton
年間出荷額 (売上高)	1,360	1,377	1,428	百万
従業員数	45	45	45	人
床面積	2,801	2,801	2,801	m <sup>2</sup>

\* 当社の活動年度は、4月～翌年3月です。

## 2. 環境経営活動実施体制

見直し:2021.01.15  
2004年9月1日

### 株式会社 カミジョウパック 環境経営活動組織図

承認	審査	作成
上條	丸山	丸山

【最高経営者】

代表取締役  
上條 宏聡

**環境保護推進委員会**  
委員長：上條代表取締役  
副委員長：丸山環境経営管理責任者  
委員：杉江部長、上條部長(工場長)

経営者及び各部門長

**役割・責任**

- 総務、経理、受付、  
環境コミュニケーション  
窓口担当
- 顧客対応  
新規品(製品・金型)設計製作  
顧客受認定、等の管理  
共通部門  
(総務・営業・  
開発・品証)
- 顧客対応  
新規品(製品・金型)設計  
新規品(製品・金型)製作  
顧客受認定、等の管理
- 段ボール  
製造全般  
ダンボール部門
- プラ段  
製造全般  
プラ段・Pブロック部門
- Pブロック  
製造全般

【総務・経理・業務部門】

総務部長 丸山 文武

手塚 美咲、矢野しおり、大原 敦子、  
平尾小百合、中山由里子

【営業部門】

兼)営業部長 上條 宏聡

【営業部】

課長 木村 善光

【設計技術部】

課長 小原 剛

【製品・金型設計製作部門】

課長 宮下 和繁

【段ボール・プラ段・Pブロック事業部門】

生産管理部長 上條 俊行

【段ボール事業部門】

兼)工場長 上條 俊行

(段ボール部署責任者)

兼) 上條 俊行

段ボール 製造工場

(プラ段部署責任者)

兼) 上條 雄介

プラ段 製造工場

【プラ段・Pブロック事業部門】

兼)工場長 上條 俊行

(Pブロック部署責任者)

兼) 上條 雄介

Pブロック 製造工場

環境経営管理責任者  
丸山 文武

### 3. 環境経営目標とその実績

#### 3. 1 環境経営目標

##### ①二酸化炭素排出量の削減

全体活動として、使用電力量、化石燃料（軽油、ガソリン、灯油、LPG）の使用量削減に取り組み二酸化炭素排出量の削減を実施展開する。

インプット項目	2017年実績	2018年実績	2019年実績	2020年目標	2021年目標	2022年目標
二酸化炭素排出量の削減 生産高比当たり (Kg-CO2/万円)	(基準年度 実績値) 5.64	5.65	5.72	6.0以下	6.0以下	6.0以下

※電力の二酸化炭素実排出係数は中部電力平成25年度 0.513 Kg-CO2/kWhを使用している。  
 購入電力会社名；(株)エナリス 購入期間；平成31年4月～令和2年2月 (二酸化炭素実排出係数：  
 0.558 Kg-CO2/kWh)  
 日本テクノ(株) 購入期間；令和2年3月

##### ②一般廃棄物量の削減

可燃物ゴミは全て焼却しているが、裏紙の使用、リサイクル可能紙の分別を実施し可燃ゴミの削減と紙のリサイクル化を推進する。

アウトプット項目	2017年実績	2018年実績	2019年実績	2020年目標	2021年目標	2022年目標
一般廃棄物量の削減 紙のリサイクル化 (%) (リサイクル紙量/焼却紙量)	29.1%	29.3%	27.8%	30%以上	30%以上	30%以上

##### ③生産用材の排出量の削減

生産用材の排出物は、有価物として全てリサイクルされているものが多いが、生産用材の収率向上によって排出量を減らして環境負荷を軽減する。

アウトプット項目	2017年実績	2018年実績	2019年実績	2020年目標	2021年目標	2022年目標
①プラスチック廃材の排出 (P事業部門： 工程内不良廃棄金額/生産金額)	16.8%	17.1%	17.7%	2%以下	2%以下	2%以下
②プラスチック廃材の排出 (PB事業部門： 不良再作成10件以下)				10件以下	10件以下	10件以下
③ダンボール廃材の排出 (排出量/投入量×100=排出率)	15.0%	13.3%	12.5%	15%以下	15%以下	15%以下

##### ④製品の環境負荷低減

環境配慮型製品を目指して、製品へのリサイクルマーク表示を顧客に推奨する。  
 また、製品含有化学物質の管理（SDS、含有物質の定量分析値）は、不可欠になっており、標準化を図って確実な実施対応する。

アウトプット項目	2017年実績	2018年実績	2019年実績	2020年目標	2021年目標	2022年目標
製品の環境負荷低減 (環境配慮型製品の推進)				(実施率)		
①製品へのリサイクルマーク表示と指導	100%	100%	100%	100%	100%	100%
②製品含有化学物質管理と徹底	100%	100%	100%	100%	100%	100%

##### ⑤環境経営システムに関わる取組整備

環境パフォーマンスの高度化を目指して環境経営システムの継続的改善を図る。

取組項目	2017年実績	2018年実績	2019年実績	2020年目標	2021年目標	2022年目標
環境経営システムに関わる 取組整備 (実施率%)	80.1%	76.5%	76.5%	80.0%	80.0%	80.0%

##### ⑥排水量の削減

・用水の環境側面は、生活水と冷却水であり、節水の啓蒙活動と監視測定とし、具体的な活動目標としては設定しない。

### 3. 2 環境への負荷実績

当社の業務内容から環境負荷としては、主に総エネルギー投入量、総物質投入量、水資源投入量、温室効果ガス排出量、総製品生産量又は総製品販売量、廃棄物等の総排出量、総排水量等が該当する。

#### 1) コア指標

##### ①総エネルギー投入量

項目	単位	2017年	2018年	2019年
総エネルギー投入量	MJ	15,328,959	15,323,665	14,243,965
生産量当たり	MJ/ton	8,815	8,406	7,388
生産高当たり	MJ/百万	11,271	11,128	9,975
従業員当たり	MJ/人	340,644	340,526	316,533
床面積当たり	MJ/m <sup>2</sup>	5,473	5,471	5,085

##### ②総二酸化炭素排出量

項目	単位	2017年	2018年	2019年
総二酸化炭素排出量	Kg-CO <sub>2</sub>	817,947	825,016	823,283
生産量当たり	Kg-CO <sub>2</sub> /ton	470	453	427
生産高当たり	Kg-CO <sub>2</sub> /百万	601	647	306
従業員当たり	Kg-CO <sub>2</sub> /人	18,177	18,334	18,295
床面積当たり	Kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup>	292	295	294

#### 2) 環境負荷サブ指標項目

環境負荷サブ指標項目		2017年	2018年	2019年	単位
総エネルギー投入量	購入電力	13,530,808	13,838,586	12,875,305	MJ
	化石燃料	1,798,151	1,485,079	1,368,660	MJ
	合計	15,328,959	15,323,665	14,243,965	MJ
総物質投入量	資源投入量	2,014	2,528	3,921	t
【水資源投入量】	上水	0	0	0	m <sup>3</sup>
	地下水	3,160	4,631	4,492	m <sup>3</sup>
【温室効果ガス排出量】	【二酸化炭素】	817,947	825,016	823,283	Kg-CO <sub>2</sub>
総製品生産量又は 総製品販売量	製品生産量	1,739	1,823	2,688	t
	環境負荷低減に資する製品	79	82	735	t
	容器包装使用量	46.6	44.0	51.0	t
【廃棄物等総排出量】	再生利用	73.5	14.1	114.9	t
	熱回収	5.0	3.2	20.1	t
	その他	2.8	10.0	20.2	t
【総排水量】	公共用水域	3,160	4,631	4,492	m <sup>3</sup>
	BOD	0.5以下	0.5以下	0.5以下	mg/l

### 3. 3 環境への取組状況

当社が関係する環境保全に関する個々の施策毎に、おおむね実施している場合は2点、一部実施している場合は1点、未実施の場合は0点として、各施策毎に集計し、環境保全に関する施策の実施度合いを評価しました。

従って、当社に於いて施策を全て実施している場合は、実施度合い100%になります。

【自己チェック実施日:2020.04.23 実施者:丸山 文武】

分類項目	施 策	評価結果の点数	満点の場合の点数	実施度合 %
事業活動への インプットに 関する項目	I 省エネルギー・新エネルギー使用の拡大	26	30	86.7
	II 省資源・グリーン購入	35	58	60.3
	III 節水、水の効率的利用	16	20	80.0
	小 計	77	108	71.3
事業活動からの アウトプットに 関する項目	I 二酸化炭素の排出抑制・大気汚染等の防止	35	50	70.0
	II 化学物質対策	35	46	76.1
	III 製品の開発・設計等における環境配慮	78	96	81.3
	IV 廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理	102	114	89.5
	V 排水処理	4	4	100.0
	VI 輸送に伴う環境負荷の低減	40	46	87.0
	小 計	294	356	82.6
環境経営システム に関する項目	I 環境への取組のための仕組み・体制の整備	69	84	82.1
	II 環境教育、環境活動の推奨等	18	24	75.0
	III 情報提供、社会貢献、地域の環境保全	21	30	70.0
	IV 環境ビジネス、技術開発	3	6	50.0
	V 国際協力及び海外事業における配慮	0	0	0.0
	VI 投資・融資における環境配慮	13	16	81.3
	小 計	124	160	77.5
全分類項目	合 計	495	624	79.3

#### 環境への取組評価

- ・環境への取組の自己チェック者を交代し、チェックの着目点を変えました。  
今後も各項目において着実にレベルアップに取り組むこと。

## 4. 主な環境経営活動計画の内容

### 1) 二酸化炭素排出量の削減

インプット項目	2019年度目標
二酸化炭素排出量の削減 生産高比当たり (kwh/万円)	6.46Kg-CO <sub>2</sub> /万円 (2018年度実績値) 今期も6.00Kg-CO <sub>2</sub> /万円以下にする。
活動の内容： 全体活動として、 ① 使用電力量を削減する。(電力：実排出係数 0.513Kg-CO <sub>2</sub> /kWh) ② 化石燃料(軽油、ガソリン、灯油、LPG)の使用量を削減する。	

### 2) 一般廃棄物量の削減

アウトプット項目	2019年度目標
一般廃棄物量の削減 紙のリサイクル化 (%)	29.3% (2018年度実績値) を超え、 30 %以上にする。 (リサイクル紙量/焼却紙量)
活動の内容： ① 可燃物ゴミの分別を励行する。 ② 裏紙の使用を励行する。 ③ 紙のリサイクルを促進する。	

### 3) 生産用材の排出量の削減

アウトプット項目	2019年度目標
生産用材の排出量の削減 ① プラスチック廃材の排出 ② ダンボール廃材の排出 (排出量削減率)	17 %以下にする。 15 %以下にする。 (排出量/投入量×100=排出率)
活動の内容： ① 工程内不良率の低減を図る。 ② 材料収率の向上を図る。	

### 4) 製品の環境負荷低減

アウトプット項目	2019年度目標
製品の環境負荷低減 (環境配慮型製品の推進) ① 製品へのリサイクルマーク表示と指導 ② 製品含有化学物質管理と徹底	実施率：100% ・各手順書通り確実に実施する。
活動の内容： ① 顧客に対し理由を話し、リサイクルマーク表示を積極的に促す。 ② 購入品等の有害物質含有量の調査のためにSDS、 成分表の発行を依頼する。	

### 5) 環境経営システムに関わる取組への整備

- ・環境への取組状況は今後も継続して(実施率%)を評価し取組の弱点を顕在化する。

### 6) 排水量の削減

- ・用水の環境側面は、生活水と冷却水であり、節水の啓蒙活動と監視測定とする。

## 5. 環境経営活動計画の取組結果とその評価

### 5. 1 環境活動結果と活動の総括

【環境経営活動実績期間 : 2019/04~2020/03】

#### 1) 二酸化炭素排出量の削減

インプット項目	2019年目標	実績値	達成度
二酸化炭素排出量の削減 生産高比当たり (Kg-CO2/万円)	6.00 以下 <small>太陽光発電量を 考慮した場合</small>	5.72 <b>【4.98】</b>	○
活動の内容 : 全体活動として太陽光発電量を加味すると 4.98 Kg-CO2/万円 ① 使用電力量を削減する。(電力: 排出係数0.513 Kg-CO2/kWh) ② 化石燃料(軽油、ガソリン、灯油、LPG)使用量を削減する。			実施評価 ○ ○ ○
活動の反省 : ・独自の省エネ設備への環境投資での活動成果『太陽光発電量、真空成形機高効率化発熱ヒーター、高速真空成形機でブラックヒーターの採用、LED照明への切り替え、無効電力低減ユニットの設置、高効率コンプレッサーへの更新、ハイブリッド車導入』等に加え、生産性の向上のため本年度も高速真空成形機に設備更新したことにより使用電力量が削減された。			

#### 2) 一般廃棄物量の削減

アウトプット項目	2019年目標	実績値	達成度
一般廃棄物量の削減 紙のリサイクル化(%) (リサイクル量/焼却ゴミ量)	30%以上	焼却 : 1,203 Kg リサイクル : 335 Kg 27.8%	△
活動の内容 : ① 可燃物ゴミの分別を励行する。 ② 裏紙の使用を励行する。 ③ 紙のリサイクルを促進する。			実施評価 ○ ○ ○
活動の反省 : ・活動16年が経過し全体活動として高い数値目標を掲げ取り組んできた結果、廃棄物置場、分別ルール、表示類など整備され、システムが定着した。 今後は、ゼロエミッションを意識して、排出量の削減に取り組む。			

#### 3) 生産用材の排出量の削減

アウトプット項目	2019年目標	実績値	達成度
生産用材の排出量の削減 ① プラスチック廃材の排出 ② ダンボール廃材の排出 (排出率削減)	17%以下 15%以下	17.7% 12.5%	△ ○
活動の内容 : ① 工程内不良率の低減を図る。 ② 材料収率の向上を図る。			実施評価 ○ ○
活動の反省 : ・プラスチックシート材のコイル幅の最適化、製品別の不良低減活動、ダンボール原反の最適化などにより収率の向上や廃材料の削減に効果がみられた。 更に、詳細について工程解析手法を用いた取り組み展開が必要である。			

4) 製品の環境負荷低減

アウトプット項目	2019年目標	実績値	達成度
製品の環境負荷低減 (環境配慮型製品の推進)			
①製品へのリサイクルマーク表示と指導	100%	100%	○
②製品含有化学物質管理と徹底	100%	100%	
			実施評価
活動の内容： ① 顧客に対し理由を話し、リサイクルマーク表示を積極的に促す。			○
② 購入品等の有害物質含有量の調査のためにSDS、成分表の発行を依頼する。			○
活動の反省： ・顧客との環境コミュニケーション課題と有益な環境影響課題として確実に実施する事を掲げ実施した。その結果、重要顧客から称賛され、最重要顧客の生産材グリーン購買基準の認定審査も受け、グリーンベンダーの認証を受けました。 今後もRoHS、Reach、SVHC、他などから法規制を含め環境関連法（循環型社会形成）の遵守を企業の社会的責任として継続的に取り組む。			

5) 省エネ設備等導入事業補助金交付活動とその成果

狙い：EA21（環境省）のEMSに取り組み（16年目）、地球温暖化防止活動に取り組む。  
体系的投資による温室効果ガス排出抑制への一層の取り組みを計画推進。

(1) 省エネ事業概要

- ・事業活動で消費しているエネルギーロス状況を把握し、照明器具の高輝度化及びLED化並びに真空成形機の加熱炉用発熱ヒーターの高効率化と断熱によって電力使用量を削減し、温室効果ガス排出量の抑制を図る。また、高速真空圧空成形機の導入により生産性を向上させ、消費電力の低減と省エネ効果を高める。

(2) 省エネ設備補助金対象投資額

- ①真空成形機用ヒーター 296.6 万円
- ②高効率省エネ蛍光灯器具 295.0 万円
- ③高速真空圧空成形機 17,620 万円

(3) 導入した設備名・技術概要

- ①真空成形機用ヒーター : 中波長赤外線を利用した加熱ヒーター。
- ②高効率省エネ蛍光灯器具 : 高反射低消費電力管球照明器具。
- ③真空成形機用ヒーター3台追加導入
- ③LED照明導入
- ④高速真空成形機用ブラックヒーター
- ⑤無効電力低減ユニット
- ⑥高効率コンプレッサーへ更新
- ⑦高速真空圧空成形機4台導入済み（本年度1台導入）

(4) 効果確認

導入した設備名	電力消費削減量	温室効果ガス抑制
①真空成形機用ヒーター	29,339 kWh	15.1 t-CO2
②高効率省エネ蛍光灯器具	30,820 kWh	15.8 t-CO2
③真空成形機用ヒーター 3台追加導入	58,678 kWh	30.1 t-CO2
④LED照明器具 (350度配光)	15,600 kWh	8.0 t-CO2
⑤高速真空成形機用 ブラック ヒーター	24,408 kWh	12.5 t-CO2
⑥無効電力低減ユニット	16,272 kWh	8.4 t-CO2
⑦高効率コンプレッサー	19,166 kWh	9.8 t-CO2
合計	194,283 kWh	99.7 t-CO2

(排出係数0.513Kg-CO2/kWh)

## 6) 太陽光発電システムの導入

### (1) 太陽光発電システムの導入仕様

①：中部電力への売電システム

②：発電量 167.4 kw

③：導入及び稼働

・導入 <2013年4月> 投資額 5,900 万円

・稼働 <2013年4月～2020年3月>間

### (2) 2019年度の発電量と効果確認<2019年4月～2020年3月>間

①：中部電力への売電電力量 193,835 kWh/2019年度

②：二酸化炭素排出抑制量(H25年度二酸化炭素実排出係数0.513Kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用)

※ 99,437 Kg-CO<sub>2</sub>/年

## 5. 2環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

### 1) 適用される環境関連法規制の遵守状況の確認及び評価の結果

当社の事業活動に伴い適用される環境関連法規等は、次の通りです。

関連法	要求事項	順守評価
廃掃法	一般・産廃物の保管、運搬・処分の委託契約、管理票の管理、	遵守
騒音規制法	敷地境界線上の騒音測定 (コンプレッサー)	遵守
振動規制法	敷地境界線上の騒音測定 (コンプレッサー)	遵守
消防法	少量危険物の貯蔵と取扱、届出 (灯油)	遵守
フロン排出抑制法	圧縮機は7.5Kw未満のため同法の対象外	遵守

### 2) 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の丸山環境管理事務局が適切に監視測定を実施しており、環境関連法規への違反はありません。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、2017年4月～2020年3月の3年間ありません。

内 容	
法律違反の有無	無
訴訟の有無	無

## 6. 次年度の環境経営活動計画

【環境経営活動実施期間 : 2020/04~2021/03】

### 6. 1 二酸化炭素排出量の削減

	2020年度目標
二酸化炭素排出量の削減 生産高比当たり (Kg-CO2/万円)	6.00 以下

#### 1) 使用電力量を削減

- ・コンプレッサー及びエア配管のエア漏れ・稼働状況の点検
- ・生産性の高い成形機の導入
- ・デマンド監視装置活用によるピークカット
- ・熱使用機械の電源は時間差でON
- ・空調フィルターの定期清掃
- ・型替え時間の短縮努力
- ・トイレ便座の温度設定
- ・エアコン温度の設定
- ・未使用の電気、パソコンモニタの電源OFF
- ・未使用時の湯沸しポット・給茶器の電源OFF
- ・太陽光発電状況の監視

#### 2) 化石燃料（軽油、ガソリン、灯油、LPG)使用量を削減

- ・社有車にハイブリッド車の採用
- ・アイドリングレスの励行順守
- ・空ふかし、急発進、急停車禁止
- ・効率的な配送計画実施
- ・配送用トラックの減車
- ・暖房の温度管理の徹底

### 6. 2 廃棄物量の削減

#### 1) 一般廃棄物量の削減

	2020年度目標
一般廃棄物量の削減 紙のリサイクル化 (%) (リサイクル量/焼却ゴミ量)	30%以上

- ・可燃物ゴミの分別を励行する。
- ・裏紙の使用を励行する。
- ・紙のリサイクルを促進する。

#### 2) 生産用材の排出量の削減

	2020年度目標
生産用材の排出量の削減	P事業部門 2%以下
プラスチック廃材の排出	PB事業部門 0件
材料収率の向上を図る。	ダンボール事業部門 15%以下

①P事業部門 : 生産高比 : 工程内廃棄金額/円を2%以下にする。

- ・不良率の低減を図る。
- ・計画的な余剰生産をする。
- ・調整時（シート繋ぎ時・流動開始時等）ロス削減
- ・ロスの早期発見と対応

- ②PB事業部門：不良による再作成件数を10件以下にする。
- ・機械ごとのマニュアルを整備する。
  - ・サンプルの写真をファイリングし、作業者が間違いやすい点を確認しやすくする。
  - ・出荷検査を徹底する。
  - ・材料の発注ミスを防止する。
  - ・外注先の管理指導を徹底する。

- ③ダンボール事業部門：廃材の排出量を削減する。
- ・可能な限りカットシートで購買する。
  - ・不採算な製品は撤退する。

### 6.3 環境保全取組実施目標

- ・敷地内、敷地周辺道路歩道の清掃活動（7月・10月）
- ・緊急事態対応訓練「火災による避難訓練」（11月）
- ・新型コロナウイルス感染症の流行に対し、空間除菌、適切な換気、マスク装着、うがい手洗いを励行します。

### 6.4 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境目標

- ・新規品の設計を行う際に効率的で無駄の少ない割付を心掛け、シートのロスを軽減し、顧客の満足度を向上させます。
- ・新規品の受注に際してはリサイクルマークの表示を提案し、廃棄時の環境配慮型製品を推進します。

## 7. 全体の評価と見直し

### 【代表者による全体の評価と見直し・指示】

- 7.1 環境保護活動16年が経過し、環境パフォーマンスの向上と社員の環境意識高揚が図られ、定着化した。具体的な取り組みの結果でも環境投資の提案など、環境意識及び環境パフォーマンスの改善にも一応の成果を出してくれました。
- 7.2 次年度の取組内容にも継続的活動に注力して中長期目標に本来業務と直結させた取り組み
- ①消費エネルギーの削減効果を二酸化炭素量で管理改善。
  - ②環境負荷の低い（環境にやさしい）製品開発とPR指向。
  - ③製品LCA評価を研究し、有益な環境影響製品の製造を目指す。
- など、有益な環境影響課題を織り込み取組展開を考えて行きたい。
- 7.3 これまでの活動として太陽光発電システム（167.4KW）を導入し、順調な発電量の推移が確認されたので次年度の発電実績データを追跡し環境への有益な影響について評価すること。（環境投資額：約5,900万円）

以上、取り組み結果から見直す要素があるが、EMSが有効且つ適切に機能している事を考慮し、2019年度は現状把握（監視測定）の年として（環境経営方針、環境経営目標、実施計画、及び環境経営システム）は見直さない。

2020年度及び中長期への展開については、ロードマップを活用して全体の見直しをする事とする。

以上